



# 自衛隊栃木地方協力本部

## 日光市ボランティア・市民活動フェスタ2025

～考えよう地域の自立から動きをつなぐに、そして絆に～



ブースに訪れた日光仮面



装備品展の様子



自衛隊栃木地方協力本部宇都宮募集案内所（所長 本郷3海佐）は、10月12日（日）日光ボランティア・市民活動フェスタ実行委員が主催する「日光ボランティア・市民活動フェスタ2025」において、自衛官募集相談員（関根昌浩氏）の支援を受け、広報活動を実施した。

「日光ボランティア・市民活動フェスタ」は、人口減少や少子高齢化が進む日光市において、今後も安心して市民生活が送れるように、日光市の最高規範である「まちづくり基本条例」の理念である「私たちにできることがある。私たちがすべきことがある。」の精神を基に、一人ひとりが「覚悟」と「責任」を持った自信溢れる人間に成長できる「共生社会」の実現の一助となるべく開催されたものであり、今回は、市制施行から20周年を迎える記念すべき開催であった。

当日、大沢公民館及びサンコー体育館では、開始30分前に参加団体同士が「つながり」や「絆」を深めるために各店舗を回り、体験活動や交流、そして意見交換をするなど、イベント開始前から会場は活気に包まれていた。

自衛隊ブースでは、普段馴染のない装備車両「1/2tトラック」が人気を集めており、日光市のマスコットである「日光仮面（疲れ切った中年を癒し救う中年ヒーロー）」「Nikkky（日光市社会福祉協議会のキャラクター）」も装備車両と一緒に写真撮影を楽しむなど、にぎわいを見せていたほか、宇都宮募集案内所長（Pーパイロット）がデザインした「Pちゃん（Pー哨戒機）」の缶バッジが人気を集めており、来場者からは「戦車の缶バッジもいいけど、Pちゃんの缶バッジかわいいですね」、「デザインのセンスが素晴らしい」との反響があり、自衛隊に対する理解を深める事ができた。また、日光市長（瀬高哲雄（せたかてつお）氏）も自衛隊ブースに来訪し、激励の言葉をかけてくれた。さらには、今後の進路に自衛隊を選択するか迷っている高校2年生や自衛隊への受験を既に考えている高校1年生らが来訪し、制度説明等に対し熱心に耳を傾けていた。

宇都宮募集案内所は、「今後も各関係協力団体と連携しながら、あらゆる機会を積極的に活用し、自衛隊の活動について理解を深めてもらうとともに、地域と一体となった採用広報活動を所員一丸となり推進していく」としている。



広報展の様子（中央 相談員 関根氏）



Pちゃん缶バッジ